〈自己完結社会〉の成立

環境哲学と現代人間学のための思想的試み（上巻）

上柿　崇英 著

〈自己完結社会〉—それは情報技術、ロボット／人工知能技術、生命操作技術とともに肥大し続ける〈社会的装置〉に人々が深く依存し、生身の他者と関わっていく必然性、生身の身体とともに生きる必然性が失われていく社会のことである。

農林統計出版

9784897324449
1923033036008
ISBN978-4-89732-453-1
C3010　￥3500E
定価(本体3500円＋税)

「われわれが必要としているのは、人間が生きることの悲哀や苦悩を無邪気な理想によって塗りつぶしていくことではない。かといって、人間が生きることの無力さと残酷さから、自己憐憫に沈んでいくことでもない。求められているのは、そうした哀苦や残酷さを一度は肯定し、なおわれわれが前を向いておのれの現実と対峙していくことができる人間の〈思想〉である。」―本書「はじめに」より

農林統計出版